

水俣病補償委

27日から現地調査

患者側との懇談も

千種座長ら二委員派遣

水俣病補償処理委員会(千種達夫座長)は二十日、東京・内幸町の公害防止事業団会議室に伊藤熊本県衛生部長と水俣市立病院付属の児病院長の大橋院長、三島副院長らを招き、水俣病の発生と現在までの経過について事情を聞いた。これにより知事、助役、患者、会社、県、病院側の事情聴取を終えたので、同日の委員会で、二十七日から二十九日まで現地調査することを決めた。

く密議を進める。



千種達夫座長

現地調査には千種達夫(中労委公益委員)三好達夫(地方制度調査会副会長)笠松章(労働障害等被害専門委員会副委員長)三委員と厚生省側の担当官が派遣されるが、二十七日は水俣市立病院付属の児病院長の入院患者を視察する。二十八日は患者が自宅療養し

ている水俣市月の浦、湯堂地区をはじめ水俣湾、チッソ水俣工場を視察したあと、患者側と懇談する。二十九日は午前中、熊本大の入鹿山教授と意見交換する予定。千種達夫座長の話、東京での事情聴取は一段落したので、現地

調査をすることになった。この現地調査が完了したあと、今後のスケジュールを決めるが、現段階ではいつごろ結論を出せるかわからない。あくまで相互理解に基づき解決方法を見いだしたい。委員会としては断断派の働きとは関係な